

U A E L

No. 8
2012.11

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.



2. 巻頭言

3. 建築学研修

4-5-6. 夏期集中研修

7. 学科ニュース

8. 情報かわら版

都市アメニティーの輪を広げる
ニュースレター第8号

「剥皮寮歴史街区のリノベーション」 撮影：山口邦雄



秋田県立大学 建築環境システム学科 計画学講座 都市アメニティー研究室

巻頭言

人対人の世界

今年の地理情報システム学会（GIS学会）研究発表大会で「地域の情報基盤に対して大学関係者のできること～アカデミック地域情報サポーターズクラブの活動を通じて～」と題した特別セッションが開かれ、私もパネラーとして参加した。アカデミック地域情報サポーターズクラブは大学の若手（？）教員の全国ネットワークで、各地での地域管理情報処理活動について情報交換を行う場である。「サポーターズ」と称している理由は、大学人が自分達で直接行う活動だけでなく、自治体や地域コミュニティの情報処理を支援する活動も含まれるためだ。

特別セッションでは主に、自治体GISの導入と活用の推進にあたって大学関係者に何が出来るか、が議論された。参加して改めて思ったのは、対象が情報システムであろうと、まちづくりであろうと、人対人の世界であり、当事者達の間力が全てを決めるということだ。登壇者には自治体職員も複数いたが、彼等の意見を聞いて、益々そのことに確信を持った。結論だけまとめると、大学人が自治体や地域コミュニティの人達と接する時は、以下のことを頭に入れておいた方が良い。

1) 相手を敬うこと

確かに専門知識は大学の方が勝っている部分もあるかも知れない。一方で知らないこともあるし、社会を支えている者同士として、相互に敬うことは大切だ。概念的には誰も否定しないと思うが、重要なのは、これを態度に出すことである。

2) 相手の話を聞くこと

これは活動的な人ほど多いが、無意識のうちに「自分が一番よく知っている」「自分が一番よく考えている」という発想がベースの言動になっている。まず相手の話をよく聞き、自分が言いたかったことも相手の方で気づきを得てくれるのがベスト。

3) たくさん会うこと

実はこれが一番重要かも知れない。メールや電話だけでなく直接会う機会を出来るだけ多く持つことの効果は計り知れない。人間も動物であり、接触頻度を上げることが警戒心の低下と好感度の向上につながる。温度差や誤解も発生しにくい。

これらの本質を抜きにして交流の枠組みや技術的課題ばかり語り合っても、虚しい言葉が宙を舞うだけで、釈然としない感情が残るだろう。自分も未熟なところが多々あるが、学生も教員も「人間力を磨く」ことを活動の基本として忘れないでいたいものだ



浅野 耕一（あさの こういち）
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野

2つの空間開発

遅い夏休み休暇を利用し、9/15から4泊5日で台北（台湾）の市街地を見てきた。

信義計画区のUrban Development

台北市は人口256万人の大都市であり、都心部は再開発が進行している。とりわけ信義計画区は新都心エリアとして台北市政府、タイペイ101の超高層建築、さらに周辺には大規模商業建築など近代建築が整然と並んでいる。日本でいえば都庁周辺となるが、緑被率ははるかに高く、アメニティ高い豊かな外部空間を創造していた。

ただし、このエリアを切り取って眺めたならば、どこの国であるかはわからないだろう。タイペイ101の中華風シルエットと、展望室から見下ろす先の開発が進んでいない地区における低層高密・複合市街地が、辛うじて台湾であることを感じさせるのみである。

剥皮寮地区の住民主導によるRegeneration

その対極にあったのが、下町の雰囲気漂う龍山寺周辺に近い剥皮寮の歴史的街並みである。清代の長屋式商店と日本統治時代の牌楼が残る複数の街区である。

小学校用地内に民家が存在したため、市政府が取り壊しを方針化したものの、昔からの居住者による抗議活動が起こり、それが発端となって修復保全された街並みである。単なる保全にとどまらず、台湾の伝統教育と近代教育の両面を展示し、ボランティアの人たちが説明にあたるなど活用され、地域のお母さんたちも子どもの遊び場として利用している。また、地元色豊かな伝統産業を活性化させる台北市の郷土教育中心としての機能を担っている。西側の歴史街区は「電影場景」として近年注目されつつあり、その一部では煉瓦造に鉄骨のフレームを組み込んだモダンな空間を創造するなど、まさに歴史と現代が融合した場となっていた。

空間開発

さて、タイトルに「空間開発」と記した。信義計画区がスクラップ&ビルド型とすれば、剥皮寮歴史地区は、過去の文脈を引き継いで現代的な価値創出につなげた都市リノベーション型である。両者はまさに空間開発の2つの潮流を示していると言ってよい。

そして、私自身にとっては、明らかに剥皮寮歴史地区の方が興味深く感じられたことを付け加えておく。



山口 邦雄（やまぐち くにお）
建築・都市アメニティグループ
都市アメニティ工学分野



建築学研修

8月7日に11期生の建築学研修の発表が行われました。都市アミニティ工学研究室全員のタイトル、浅野先生と山口先生の指導学生のうち、森下君・工藤さんの研修の概要を紹介します。

市街化区域の拡大地区とマスタープランの計画整合に関する研究 —岩手県盛岡市を事例として—

B11C013 工藤 美紗子

<目的>

我が国の人口は既に減少期に転換しており、とりわけ地方都市の人口減少率は著しいものがある。

岩手県盛岡市においては平成13年度に都市MPを策定し、人口減少や少子高齢化等の社会情勢の変化に対応するため、平成22年に見直しが行われたが、都市計画の基本目標は変化していない。しかし同市は近年の人口減少にも関わらず、宅地の供給を目的とした市街化区域の拡大を行っている。そのため都市MPによって定めた目標都市像との乖離が発生している様子が見られ、何かしらの問題が発生することが予測される。

以上のことから、本研修では盛岡市における市街化区域の拡大地区に着目し、開発の実態と、都市MPの方針との整合性を明らかにすることを目的とする。

表1 開発実態と都市MPの整合性

	地区計画の有無	区画整理事業の有無	MPとの整合性	宅地供給
a.洞清水地区 (6.5ha)	-	有	×:北方への拡大	○:スムーズな宅地化
b.大平地区 (47.9ha)	有	有	×:北方への拡大	×:未着工
c.長橋地区 (28.5ha)	有	-	○:南方の平野部への拡大	○:スムーズな宅地化
d.道明地区 (70.6ha)	有	有	○:南方の平野部への拡大	×:事業の遅れ

<まとめ>

今回の研修では、MPとの整合している地区、整合していない地区が存在していることが明らかになった。

宅地の供給が順調に進まなかった地区では、区画整理事業の施行面積が大きく、人口が減少期にある時期と事業時期が重なったことが大きく影響している。都市計画の手法によって、建築が可能となる時期が大きく異なる。よって、人口の推移を注視しつつ、適切な手法を用いることが重要と指摘出来る。

ゆとり教育の施行が

こどものあそび環境に与えた影響に関する一考察

—秋田県出身のゆとり教育世代を対象として—

B11C016 郷内 陽平

運用時を対象とした居住者に与える

被害費用の統合による住宅設計案評価の試み

B11C037 森下 諒

<目的>

建築のライフサイクルアセスメント(LCA)を行う上で、地球環境への影響を考慮したツールは開発されてきているが、居住者への直接的な影響、すなわち安全性や快適性を総合的に評価する機能は組み込まれていない場合が多い。例えば、熱中症などの気温に関係する疾病を評価する上でも、地球環境の改変による外気温の影響のみ検討され、建築設計の影響を検討するには限界がある。そのため本研究では運用時を対象とし、居住者が室内で受ける被害を総合的に評価する事を試みる。

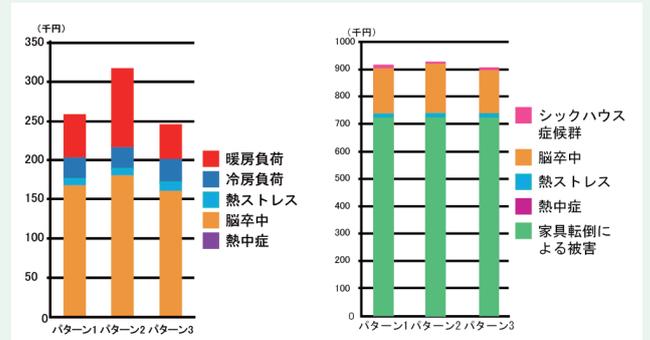


図1 ケース別健康負荷

図2 熱関係の健康負荷

<まとめ>

本研究では運用時を対象とし、居住者が室内で受ける被害を総合的に評価する事を試みた。今回は寒冷地域を対象としたことで寒冷による疾病の値が大きくなり、暑さを原因とする疾病の値が小さくなった。そのため対象地域を東京・愛知など関東・東海の地域で行えば異なる結果が得られると思われる。

乳幼児期の屋外あそび環境に対する一考察

—秋田市内の保育従事者を対象とした意識調査について—

B11C023 佐藤 奈々

教員・院生の活動報告

三重大学・三重さきもり塾
「地域防災総論1: 防災情報テクノロジーとシステムの構築」講師

秋田市電子化推進専門部会
「統合型時空間GIS導入」技術アドバイザー

「歴史的市街地再生における市民まちづくり事業の経済的価値に関する研究」都市住宅学会誌, No. 77

「人口減少下における市街化調整区域の規制緩和の効果と課題に関する研究」都市計画学会論文集, Vol. 47

高山あずさ

日本建築学会東北支部研究報告会「自治体GISを用いたLCCO2評価による低炭素社会へのロードマップ作成支援に関する研究その2 アンケート調査結果による暖冷房と家電のエネルギー消費量の推計」

日本建築学会東海大会
「自治体のLCCO2評価による低炭素社会化ロードマップ作成の支援ツールに関する研究その2 アンケート調査結果による住宅のエネルギー消費量の推計」

THE 9TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ARCHITECTURAL INTERCHANGES IN ASIA
「Case Study on Estimation of Private Habitat Energy Consumption in Yurihonjo City Using Questionnaire Survey Results」

天間 佑貴

エコデザイン 2012 ジャパンシンポジウム 「住宅設計初期段階用の居住者被害算定型LCAツールの提案」

大門・本町通りのまちづくり



目的

- ①夏期休暇期間を生きし、実際の都市及び建築を素材に計画やまちづくりについて集中的に調査・研究を実施する。
- ②地域住民・専門家との交流を通じて知見を広める機会を創る。
- ③研究室配属直後の3年生も含め、教員と学生、学生相互間の親睦を深める。

研究の過程

>>ヒアリング

実際に地域住民の方々にお会いし大門・本町通りの現状の「悪い点」や「良い点」また拡幅に伴い通りにどうなってもらいたいかをお聞きしました。

>>検討・発表

ヒアリングの内容を整理し道路拡幅によるまちなみの形成案を考えました。発表では様々な方に来て頂きました。そこで自分たちの形成案の問題点や良い点など地域住民の方々から意見を頂く事が出来ました。

地域住民の方のヒアリング結果、また発表の際に頂いたご意見をまとめもう一度形成案を考えました。



↑ 荻谷先生、根倉君、野澤君（建築計画）にも参加してもらいました。

コンセプト

四季に染まる町並み

～歩きたくなるまちづくり～

にぎわいのある町とはなんでしょうか？それはきっと、人の存在を強く感じることができ、歩くことで「新たな発見」や「人との出会い」がある町です。私たちは日本の色鮮やかな四季の変化を町並みに取り入れ、季節ごとに様々な表情を見せ、積極的に歩きたくなるような町並みをここに提案します。

立面案 1



立面案 2



近くの本荘公園では春先に出店がならび、本荘の人々は花見へと繰り出します。その時に大門・本町通りを歩いてみてはいかがでしょうか？そこには本荘公園からこぼれ落ちたように桜並木が続いており、夜には足下からの明かりに照らされ、ゆっくりと歩きながら夜桜を楽しむことができます。

公園の桜が「静」で楽しむものとすれば、私たちの提案する桜は「動」で楽しむ桜となるでしょう。

春



桜の木は秋の紅葉も美しいです。春とは違ったしおらしい姿が見られ、秋という季節を楽しむことができます。また、ポケットスペースで落ち葉を利用した焼き芋、秋の味覚祭りなどのイベントを開催してはいかがでしょうか？

赤や黄に色づいた町並みに「そろそろかあ…」と、たくさんのイベントに心を踊らせる。秋にも様々は楽しみ方があることに気付くはずです。

秋

夏には本荘八幡神社による式典が催されています。町内の人々が集まり1つの目標に向かって決起するすばらしい行事です。道路の拡幅により式典の曳山はより見やすくなるでしょう。また通りの桜には青々とした緑が茂り、それに合わせて通りが緑陽し、美しい風景が広がります。

春の淡い桜色の景色はがらりと変わり、力強い緑が通りを包むことでしょう。

夏



冬は寒く、しんと雪が降り続く。しかしそれが東北という地に住む魅力でもあります。拡幅によって歩きやすくなった通り。春に桜を照らしていた照明は、足下に積もった雪を、雪の積もった枝を、そして舞い降りる雪の1粒々々を照らし、冬の町並みを彩ります。

輝く雪の白さに目を奪われ、ふと気付くと、枝の先に芽吹く淡い色を見つけることでしょう。

冬

看板計画

袖看板

日よけ暖簾（布看板）



↓ 共通のシンボル



袖看板：全店舗統一のものを1種類

布看板：四季に応じた4種類を季節ごとに交換

冬は積雪により配置が困難と考えられるため、布看板ではなくのれんにする。

また、袖看板・布看板ともに桜をモチーフにした共通のシンボルを入れる。

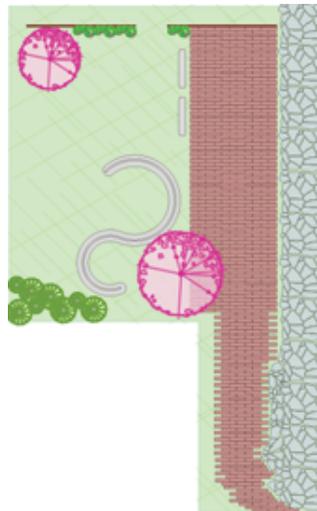
「本荘公園をつなげる通り」



本荘公園と大門・大町通りその架け橋になるような道をこの南北通りに担ってもらう。

- ・本荘公園の門前の石畳を延長して南北通りも石畳にする。
- ・照明を埋め込み式にして足下を明るくする。
- ・電柱を地中化し通りを広くする。

「通りの奥の癒しの空間」



細い路地を入っていくと奥は広がっていて「何があるんだろう？」と興味を持たせるような空間構成となっている。

路地の奥の土地を利用して町の人々が自由に集う事の出来るポケットパークを設けた。ここでは町の人々がイベントを開いたり、世間話をしたり日常的にふれあう事でコミュニティの形成を目指す。

※この提案の骨組みとなった「大門・本町通周辺地区地区計画」(山口先生の立案)2012年4月に都市計画決定されています。

秋の夜長、読書はいかがですか？



渡辺先生より建築学生必読！なおすすめ書籍を紹介していただきました。



「学生諸君！さっそうたる明日へのメッセージ」

漱石・賢治・太宰・陽水ほか著、光文社

若者に向けた偉人たちのメッセージ集。私と同じ年に書いた文章らしいです…「狐疑する勿れ。躊躇する勿れ。驀地に進め。一度卑怯未練の癖をつくれれば容易に去りがたし。／人を崇拜する勿れ。人を軽蔑する勿れ。生まれぬ先を思へ。死んだ後を考へよ。／人を観よ。金時計を観る勿れ。洋服を観る勿れ。威張る勿れ。諂ふ勿れ。徳あるものは威張らずとも人これを敬ひ、諂はずとも人これを愛す。」夏目漱石『愚見数則』より抜粋

「The Politics, Diplomacy Issues and Society of Japan 日本事情—政治・外交・社会編」



Yamakuse Yoji・Daniel Warriner 著、IBCパブリッシング株式会社

英語で日本の勉強ができます。逆転の発想？

「撤退の農村計画 過疎地域からはじまる戦略的再編」

林直樹・齋藤晋編著、学芸出版社



思い切ったタイトルに、つい手が…

「都市計画 利権の構図を「美人の日本語」超えて」

五十嵐敬喜・小川明雄著、岩波新書



法律のしくみや経緯を勉強中です。



花弁雪、天花、牡丹雪、すべて雪の花。ここに降るのは…花嵐雪??

Warum ? が創るドイツの「人, まち, 建築, 芸術」

ドイツ人と話していると、ことあるごとに「Warum? [ヴァルム]: 何故?」と聞いてくる(他に多い言葉は ganz [ガンツ] と super [ズーパー])。例えば「有名な観光地に行っていない」というと「何故?」と必ず聞いてくる。ここで「なんとなく」で会話が終わる日本人も少なくないだろうが、おそらく「自分の意見や判断力が無いダメな人」とみなされるだろう。学生や研究者とわかると、まず「何を学んでいるか」を聞かれ、大学名は必要であれば後で聞かれるが、この質問の順番にも上記のような「求められる本質的な力」が表れていると思う。

この「何故?」は、子育てや初等教育の段階から大切にされている。ミュージアムで、幼稚園の団体や小さい子供をつれた家族に必ず出会うが、子供に大人と同じ空間を(理解できなくてもいいので)体験させ、作品にふれさせて、返ってくる「何故?」に向き合っている。また「どう思うか?」を積極的に質問している。日本の親の多くが、あるいは教育者でも、できていないことではないかと思う。

ドイツの魅力として街や建築や芸術をあげる方も多い。また、合理性と芸術の共存も魅力の一つであると思う。僕はその根底にあるドイツ的なものが、この「何故?」と向き合い、たのしむ国民性であると考えている。今年は5年に一度のドクメンタという現代アートイベント(13回目)がカッセルであったのだが、あらゆる「何故?」であふれている愉快的な場だった。ドイツの建築やまちをみながら、沢山の(潜在的)「何故?」を生かすことの可能性を、日本でも考えていたらと思っている。

今回は計画学講座、込山先生より一言頂きました!

込山 敦司 准教授
計画学講座



鎌倉卓史 1991/7/24 生

愛知県出身
好きなこと: 動くこと
強烈な一言: いま怪我した

都市アメに新たな仲間が
加わりました!

清水里美 1991/7/11 生

福島県出身
好きなこと: ペットショップや動物園で動物を観察すること!
強烈な一言: 脱原発。



New Faces! よろしくお祈いします!

平塚亮太郎 1991/11/18 生

山形県出身
好きなこと:
ゲーム、落書き、折り紙
強烈な一言: 否! 断じて!
否アアアアアアアア!!

宮崎元基 1991/6/14 生

神奈川県出身
好きなこと: 寝ること、お腹下しやすいこと
強烈な一言: おまえんち
おっぱいやーしき!!



畠山浩喜 1992/2/25 生

栃木県の都会育ち w
好きなこと: 家でゴロゴロ
強烈な一言: 明日があるな



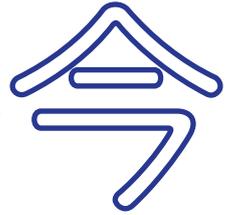


ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!

<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>

(検索サイトから“都市アメニティ工学研究室”で検索)

OB・OG



7期生 小熊耕平さん

都市アメ研のみなさんこんにちは。そして、都市アメのOB、OGをはじめ、いつも都市アメ研の活動を応援して下さる皆様こんにちは。7期生の小熊耕平です。都市アメのみなさんの活躍は、HPやNLを通して拝見しています。この度、このような機会を頂き、大変嬉しく思います。私は、現在、大阪の建築設計事務所に勤務しています。多くの部門を抱える組織事務所であり、その中で意匠設計の仕事をしています。学生のみなさんには、設計の“実務”を少しでも知る機会となればと想い、設計者としての取り組み内容をお話します。

建築設計は、まず、施主あるいは社会の「期待」は何なのか掴むことから始まります。そして、その期待に応えるかたちで建物を具現化していきます。意匠設計者が主に担うのは、プランやデザインを「如何にして実現するかを追及し、その成果を図面化する」という課題です。学生時代には、馴染みのない法規やコストもふまえながら、専門技術を駆使し、建物を実現していきます。その過程では「根拠を持った設計ができているか」を徹底的に追求します。これが設計の難しさでもあり、醍醐味でもあります。例えば、自然外圧(光、熱、空気など)に対して、どのような素材、構法で設計するか、人間の心理はどうかなど、追求内容は多岐にわたります。構造設計者や設備設計者とも頻りにすり合わせを行いますので、とても刺激的です。要求仕様を明確化していく過程は、期待に応える過程でもあり、とても楽しく思います。

今後、社会人として活躍される皆さんへの期待を1つ。何かを実現する過程では、常に「なんで？」という考えを持ってください。物事の背景を掴もうとすれば、同時に期待を掴むことに繋がります。建築設計も、応えるべき対象(施主、社会)の期待は何なのか?社会領域から技術領域まで常に「なんで思考」を持って仕事を進めています。それは、研究でも仕事でも仲間と楽しむ時も、期待を掴むという重要な思考です。最後に、都市アメ研の活動をいつも楽しみにしています。たくさんの情報発信を待っています。

11月・本誌発行

12月・由利本荘中心市街地
まちづくりシンポジウム

日時:H24/12/8(土)
場所:文化交流館「カダーレ」ギャラリー2室

2月・都市アメニティ工学分野 卒業・修了展

日時:H25/2/16(土)・17(日)
場所:秋田市民交流プラザ「ALVE」

3月・卒業論文審査会・修士論文審査会

・卒業式・修了式

編集後記

あっという間に秋も深まり、秋田は思わず肩をすくめてしまうような冷たい風が吹くようになりました。そんな中でも都市アメの研究室は常に和気あいあいといった雰囲気、10月に12期生を新たに迎え、さらに賑やかになって来ました。

編集部も新たに引き継ぎの時期を迎えようとしています。来年度はより良いNLを作りたいと考えております。引き続き、今後ともよろしくお願い致します。

2012.11.14 NL 編集部

工藤美紗子 清水里美 山口邦雄 渡辺真季



UAEL 編集部

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

電話：0184-27-2053 mail：yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口邦雄

OB・OGの皆様へ

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願いします。連絡は山口まで。

山口先生が昨年度に引き続き、就職委員となりました。OB・OGの皆さん、就職ガイダンスで「先輩に聞く就職活動と企業状況」という企画がありますので、来校可能な方は是非ご協力下さい。